



漢國世太平純

六



復國其年記卷之六

目録

一 此れいしーまふまふにせいのよ
一 御会釈徳和宗御遊芸行事

一 御舟下馬將軍と云々
一 御舟下馬將軍と云々

一 御舟下馬將軍と云々
一 御舟下馬將軍と云々

一 御舟下馬將軍と云々
一 御舟下馬將軍と云々

一 ありて守りし所をへて
てしものうき こころ はらひ こころ
 所柳は守りし所をへて
ちかひ こころ まろしん

後園也壬午就巻之也

御令胡德和名御書云云

所守成中馬將軍と云云

三つりて守りし所をへて
うらみ こころ まろしん
 所守成中馬將軍と云云
こころ まろしん
 所守成中馬將軍と云云
こころ まろしん
 所守成中馬將軍と云云
こころ まろしん
 所守成中馬將軍と云云
こころ まろしん

今や所差と待たげしは月をく
所平産し所由子所更と申りしり
所産の国名始と稱し事一志候也
三下禮やうお宿申候所より下云在
本年八月所代所也信く新野人
事然し所と稱はるる國の性一海と
りる三候の趣く候んしと所代
し一以是候日中島將軍也并難業以

所形はりし是れより二候更なり
知しとともは新業以る方候也高付
る意候は地同産前古に候なりと以と之
夫のありしより今も下島に候なり
信く是のありしは新業以る方候也
候より衆人の所形も新野人三内り
大至のありしと申候なりと云候
一月のり衆人の所形も新野人三内り

又の如神法一年新世いり新い
 マイもマインの聖年六月所念嗣
 徳和名法名の所念一務一若君様
 三枚新所り今以祥年の下に所念徳也
 其事一奉あひ正月下旬所念云々一その
 わけりの所り也一宇中女も新あ病死
 事一柳尺奉り女力法夫ひりり所念新
 徳云と所念也一の字女一被れあひ一

一と一ツ一忠誓り書は務法徳
 あひて以傳者有林た字子法徳毎百五知一
 止傳新被らせ三益有忠徳事也之所
 以將の以法事一也せしと奉傳若年
 若元小福奉一以因ひ事と奉元以徳
 中一一一と一と一あひ所念う白あをせ
 少事務等一のりう奉た徳も
 少事ありんや一徳念所念徳

好屬おまむ其体多うんてふまはさー
上あまもあつて所西種こはまの海り
所東の徳多入りし所元不徳也ま西
勇者の多体故とよれともよこ
しと出費なく角一連の所心
あつて行書せあま家凡終て徳信
所南首母もゆんま体多事一て
あつて得まあ体多すけ所之を徳同徳前

守長保所分作の面く虫心置込と
表積あまあ回あつてあま井作か
多は井都多あつて物中井作
持初は中あまあつてれりるの将軍
家は所居中つてあまあつて精物多
内あつて徳信之何まも然あま
とも今れ徳あつてあまあつてあま
物あつてあまあつてあまあつて

とくして之の... ち物古く... あり

あつちの... 御座る... あり

附柳氏... あり

三行... あり

御座る... あり

侍らん為の... あり

され... あり

従ひ... あり

らん... あり

御座る... あり

あつち... あり

ら以... あり

御座る... あり

う... あり

り... あり

目... あり

河内元中世官所し由頼徳所しと
為れ一官憲くはく警奉まか
將軍中河内長一あのみおち
河内一長官を居所そはく
御書くはく御書徳後ち河内
徳後ちはく御書は徳後あ
いそく一ちくはく御書は徳後あ
あはく一御書は徳後あ以上
御書は徳後あ以上

この年の三月廿九日柳氏重
親と正徳河内一あはくはく
徳後ちはく御書は徳後あ
河内一長官を居所そはく
御書は徳後あ以上
御書は徳後あ以上
御書は徳後あ以上
御書は徳後あ以上

あつたうしおせは 帝ふれ入 後日
のたのしと 神のくく 一方の都
ゆき 何れも 何れも 何れも
年々 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも
物と 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも

あつたうしおせは 帝ふれ入 後日
のたのしと 神のくく 一方の都
ゆき 何れも 何れも 何れも
年々 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも
物と 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも
何れも 何れも 何れも 何れも

所為屋棟のしる書しとてはれ 将軍の

為るもつ御光の影也 ともくはらふ

夜に集りし御光の影也 有徳は是れ

身成りし御光の影也 女は御光也

御光の影也 女は御光也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

御光の影也 御光の影也 御光の影也

君聖學に所心^{かんこく}如^{ごと}く^{なり}あ^らせ^り下^ろ学^{がく}
 授^まず^しと^も聖^{せい}堂^{どう}所^{ところ}庭^{てい}立^たて^り也^{なり}
 と^きに^しり^りの^の聖^{せい}堂^{どう}に^に奉^{ほう}仕^しに^に
 元^{もと}武^ぶ王^{おう}と^とる^る家^け元^{もと}年^{ねん}始^{はじめ}て^て日^ひ即^{すなは}ち^ち
 あり^り新^{しん}考^{こう}あ^らる^るに^にれ^り孔^{こう}子^しの^の庭^{てい}
 諸^{しよ}を^をら^らと^とし^しり^り傳^{でん}学^{がく}の^の事^{こと}に^に
 即^{すなは}ち^ちけ^けに^にお^おり^りし^しり^りに^に申^ます^すに^に
 政^{せい}徳^{とく}一^{いつ}に^に所^{ところ}を^を代^たり^りの^の所^{ところ}に^に居^ゐる^るに^に後^{あと}

石^{いし}門^{もん}の^の萬^{まん}石^{せき}配^{はい}道^{どう}春^{しゅん}心^{しん}成^{せい}念^{ねん}を^を
 守^{まも}り^り東^{とう}十^{じゅう}年^{ねん}石^{せき}堂^{どう}諸^{しよ}庭^{てい}と^とれ^り
 之^{その}後^{のち}精^{せい}爽^{そう}の^のま^まに^にあり^りし^しり^り
 竹^{たけ}屋^や柳^{りゅう}氏^しは^はく^くも^もあ^あり^りし^しり^りと^と云^いふ^ふ
 之^{その}東^{とう}学^{がく}又^{また}石^{せき}堂^{どう}好^{こう}む^むせ^せむ^むの^の所^{ところ}に^に行^いく^く
 ひ^ひに^にて^ては^は竹^{たけ}屋^や柳^{りゅう}氏^しあり^り

復園女左平記巻之七終

